

「継続的な安全性向上に関する検討チーム」への参加要望について

1. 参加要望

本年8月以降、「継続的な安全性向上に関する検討チーム」において、新たな規制の枠組みに関する議論が進められています。

これまでの検討チームの議論などを踏まえると、事業者が運転を継続するために最低限遵守する必要がある規制要求の領域と、事業者による完全な自主的取組に任される領域の間において、新たな枠組みについて検討が行われていると認識しています。(図1)

これまで、有識者の先生方や事業者から意見聴取がされましたが、今後の検討を進める上で、原子力エネルギー協議会(A T E N A)も参加し、意見聴取いただきたく存じます。

2. 今後の会合における説明事項

継続的な安全性向上においては、規制当局・事業者の双方が、安全上の重要度を考慮して限られたリソースを配分し、安全性を実効的に高めていくことが重要と認識しています。

現在先行して取り組んでいるデジタル安全保護回路の共通要因故障対策の例のように、許認可手続きを要さずに産業界の自主性に委ねて安全性向上を行う枠組みがあることで、安全対策が早期に実現できること、事業者が良く知る現場実態に即した効果的な対策を立案しやすくなること、また、自主による小さな改善を機動的に積み重ねやすくなることが期待できると考えます。

これら新たな枠組みの検討に資するため、まず、A T E N Aが考える全体像とこの中でA T E N Aが果たす役割について意見を述べさせていただきたいと考えています。

A T E N Aは、この産業界の安全性向上活動において、主体的に取組方針を取りまとめること、事業者の進捗・対策実施状況を確認すること、及び、これらを公開し社会に対して透明性を持って取り組んでいくこと等を行うことにより、事業者の安全性向上の取組を牽引していく考えです(図2)。

また、これらの検討においては、事業者が過去に取り組んだ自主対策(アクシデントマネジメント対策)の振り返りと教訓を反映していく考えです。

その上で、これら新たな枠組みの詳細を検討する段階において、今後検討が必要となる主な課題は以下を含むと認識しています。産業界を代表してA T E N Aとして今後検討を進め、検討チームにおいて適宜共有し、継続して議論させていただきたいと考えます。

- A) 安全性向上につながる「欠け」の抽出
- B) 規制要求、新たな枠組み、自主のいずれで取り組んでいくかの仕分け。そのために必要な安全上の重要度の指標。
- C) 自律的な取組の詳細設計(公開のあり方、対策不履行の場合の産業界の対応)

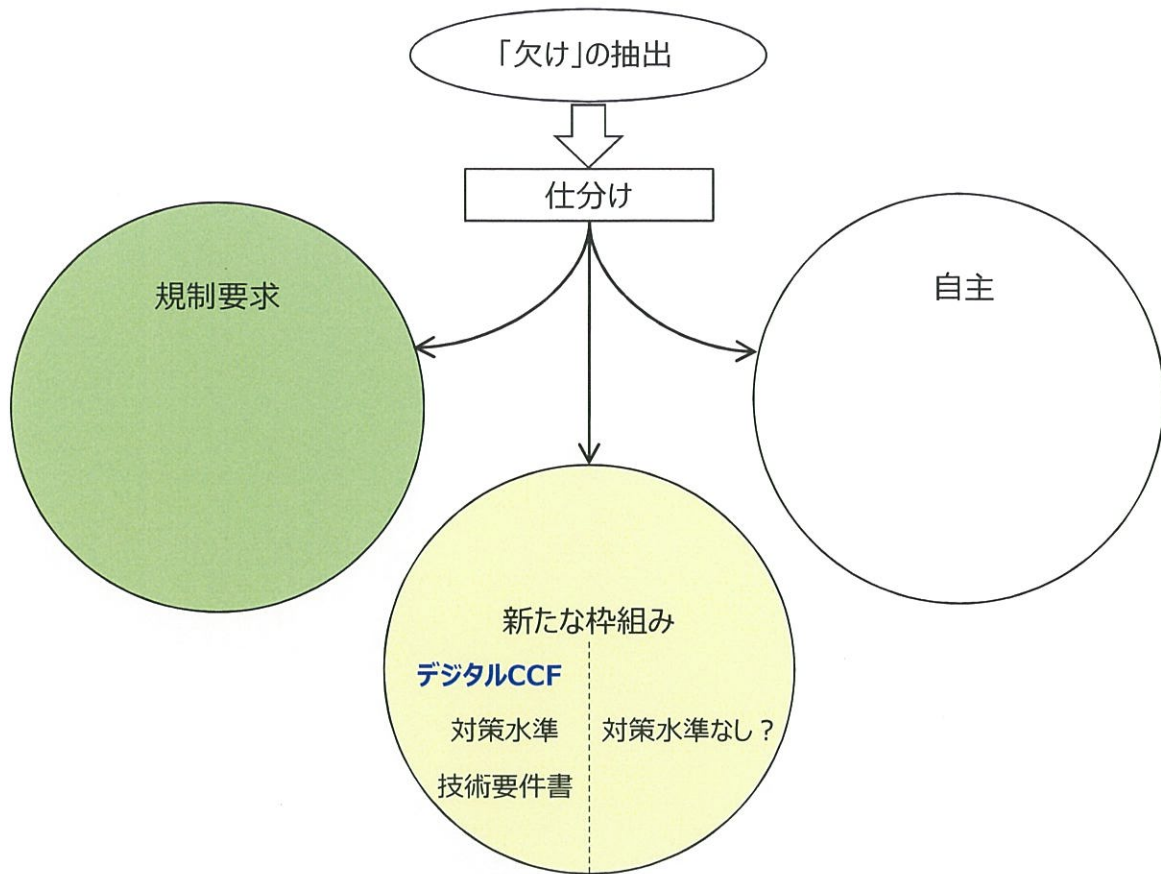


図1 自主的安全性向上に係る新たな枠組みイメージ

安全上の重要度・安全性向上に投入するリソース

	規制要求		新たな枠組み		
	NRA	事業者	NRA	ATENA	事業者
要求	○規制要求 ・規制基準 ・審査ガイド		(取組方針 認識共有)	○取組方針 ・ガイド ・技術要件書	
↓					
計画・実施 (設計・対策)	○審査	○設置許可(基本設計) ○工事計画(詳細設計) ○運用検討(保安規定)	確認 (設計進捗を ATENAへ 確認可能)	○確認・公開	○実施計画書 ○設計 (基本,詳細)
↓					
確認・検査	○原子力規制検査	○工事実施 ○使用前事業者検査 ○運用・保全	確認 (対策状況を ATENAへ 確認可能)	○確認・公開	○工事実施 ○自主検査 ○運用・保全

図2 自主的安全性向上に係る取組スキーム